

1

(30 点)

w を 0 でない複素数, x, y を $w + \frac{1}{w} = x + yi$ を満たす実数とする.

(1) 実数 R は $R > 1$ を満たす定数とする. w が絶対値 R の複素数全体を動くとき, xy 平面上の点 (x, y) の軌跡を求めよ.

(2) 実数 α は $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ を満たす定数とする. w が偏角 α の複素数全体を動くとき, xy 平面上の点 (x, y) の軌跡を求めよ.

《解答》

(1) $w = R(\cos\theta + i\sin\theta)$ ($0 \leq \theta < 2\pi$) とおく.

$$\frac{1}{w} = \frac{1}{R} \{ \cos(-\theta) + i\sin(-\theta) \} = \frac{1}{R} (\cos\theta - i\sin\theta)$$

より

$$w + \frac{1}{w} = \left(R + \frac{1}{R}\right) \cos\theta + i \left(R - \frac{1}{R}\right) \sin\theta$$

であるから

$$\begin{cases} x = \left(R + \frac{1}{R}\right) \cos\theta \\ y = \left(R - \frac{1}{R}\right) \sin\theta \end{cases}$$

である. $R + \frac{1}{R} > 0, R - \frac{1}{R} > 0$ より

$$\cos\theta = \frac{x}{R + \frac{1}{R}}, \sin\theta = \frac{y}{R - \frac{1}{R}}$$

である. $\cos^2\theta + \sin^2\theta = 1$ より, 求める軌跡は楕円

$$\frac{x^2}{\left(R + \frac{1}{R}\right)^2} + \frac{y^2}{\left(R - \frac{1}{R}\right)^2} = 1 \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

の全体である.

(2) $w = r(\cos\alpha + i\sin\alpha)$ ($r > 0$) とおく.

$$\frac{1}{w} = \frac{1}{r} \{ \cos(-\alpha) + i\sin(-\alpha) \} = \frac{1}{r} (\cos\alpha - i\sin\alpha)$$

より

$$\begin{cases} x = \left(r + \frac{1}{r}\right) \cos\alpha \\ y = \left(r - \frac{1}{r}\right) \sin\alpha \end{cases}$$

である. $\cos\alpha \neq 0, \sin\alpha \neq 0$ より

$$\begin{cases} r + \frac{1}{r} = \frac{x}{\cos\alpha} \quad \dots\dots\dots ① \\ r - \frac{1}{r} = \frac{y}{\sin\alpha} \quad \dots\dots\dots ② \end{cases}$$

①, ② から

$$\begin{cases} r = \frac{1}{2} \left(\frac{x}{\cos\alpha} + \frac{y}{\sin\alpha} \right) \quad \dots\dots\dots ③ \\ \frac{1}{r} = \frac{1}{2} \left(\frac{x}{\cos\alpha} - \frac{y}{\sin\alpha} \right) \quad \dots\dots\dots ④ \end{cases}$$

であり, ① かつ ② は ③ かつ ④ と同値である. ③, ④ から

$$\frac{1}{4} \left(\frac{x^2}{\cos^2\alpha} - \frac{y^2}{\sin^2\alpha} \right) = 1$$

である. また, ③ を $r > 0$ に代入して

$$\frac{1}{2} \left(\frac{x}{\cos\alpha} + \frac{y}{\sin\alpha} \right) > 0$$

である.

よって, 求める軌跡は, 双曲線の一部

$$\frac{x^2}{\cos^2\alpha} - \frac{y^2}{\sin^2\alpha} = 4 \quad (x \geq 2\cos\alpha) \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

である.

2

(30点)

四面体 $OABC$ を考える. 点 D, E, F, G, H, I は, それぞれ辺 OA, AB, BC, CO, OB, AC 上にあり, 頂点ではないとする. このとき, 次の間に答えよ.

- (1) \vec{DG} と \vec{EF} が平行ならば $AE:EB=CF:FB$ であることを示せ.
 (2) D, E, F, G, H, I が正八面体の頂点となっているとき, これらの点は $OABC$ の各辺の中点であり, $OABC$ は正四面体であることを示せ.

《解答》

(1) $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とおく.

$$\begin{aligned} OD:DA &= p:1-p, & AE:EB &= q:1-q, \\ BF:FC &= r:1-r, & CG:GO &= s:1-s \end{aligned}$$

($0 < p < 1, 0 < q < 1, 0 < r < 1, 0 < s < 1$)

とすると

$$\begin{aligned} \vec{OD} &= p\vec{a}, & \vec{OE} &= (1-q)\vec{a} + q\vec{b}, \\ \vec{OF} &= (1-r)\vec{b} + r\vec{c}, & \vec{OG} &= (1-s)\vec{c} \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} \vec{DG} &= \vec{OG} - \vec{OD} = -p\vec{a} + (1-s)\vec{c}, \\ \vec{EF} &= \vec{OF} - \vec{OE} = -(1-q)\vec{a} + (1-r-q)\vec{b} + r\vec{c} \end{aligned}$$

である.

$\vec{DG} \parallel \vec{EF}$ のとき, 0 でない実数 k を用いて

$$\vec{EF} = k\vec{DG}$$

と表せるから

$$-(1-q)\vec{a} + (1-r-q)\vec{b} + r\vec{c} = -kp\vec{a} + k(1-s)\vec{c}$$

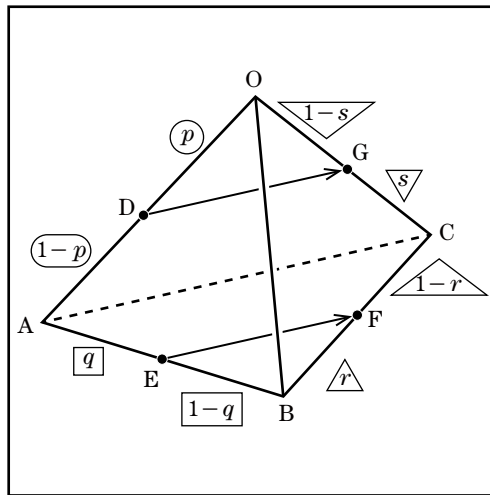
である. $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ は一次独立より

$$\begin{cases} -(1-q) = -kp \\ 1-r-q = 0 \\ r = k(1-s) \end{cases}$$

であるから

$$r = 1-q, s = 1-p, k = \frac{1-q}{p}$$

である. よって, $AE:EB=CF:FB$ である.



(2) D, E, F, G, H, I が正八面体の頂点となっているとき, D, E, H が正方形の3頂点になることはない.

$\vec{DH} \parallel \vec{IF}, \vec{EH} \parallel \vec{IG}$ であるから, (1) と同様にして

$$\begin{aligned} OD:DA &= OH:HB & \therefore OH:HB &= p:1-p \\ BE:EA &= BH:HO & \therefore OH:HB &= q:1-q \end{aligned}$$

である. よって

$$p = q \quad \dots\dots ①$$

である. また, $\vec{DE} \parallel \vec{GF}$ であるから, 同様にして

$$1-p = q \quad \dots\dots ②$$

である.

①, ② より, $p = q = \frac{1}{2}$ であるから, D, E, H はそれぞれ辺の中点である.

中点連結定理から

$$OA = 2EH, OB = 2DE, AB = 2DH$$

である. また, 正八面体の各辺の長さは等しいので

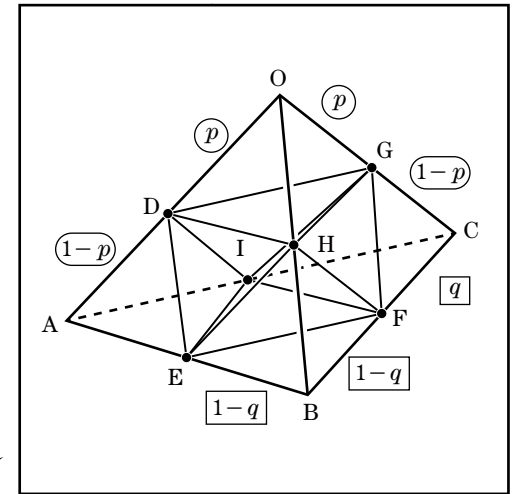
$$EH = DE = DH$$

である. よって

$$OA = OB = AB$$

であるから, $\triangle OAB$ は正三角形である.

F, G, I も同様に各辺の中点であり, $\triangle OBC, \triangle OCA, \triangle ABC$ が正三角形であるから, $OABC$ は正四面体である.



3

(35 点)

p, q を自然数, α, β を

$$\tan \alpha = \frac{1}{p}, \tan \beta = \frac{1}{q}$$

を満たす実数とする. このとき

$$\tan(\alpha + 2\beta) = 2$$

を満たす p, q の組 (p, q) をすべて求めよ.

$q=5$ とすると, ① より, $p = \frac{22}{19}$ であるから不適である.

q が 7 以上の奇数のとき

$$2(q^2 - q - 1) - (q^2 + 4q - 1) = q^2 - 6q - 1 = (q - 7)(q + 1) + 6 > 0$$

であるから, $0 < \text{①の分子} < \text{①の分母}$ となり, p は整数でなく, 不適である.

以上から

$$(p, q) = (2, 3)$$

………… (答)

である.

《解答》

$q=1$ のとき, $\tan \beta = 1$ より, $\beta = \frac{\pi}{4} + n\pi$ (n は整数) である. このとき

$$\tan(\alpha + 2\beta) = \tan\left(\alpha + \frac{\pi}{2} + 2n\pi\right) = -\frac{1}{\tan \alpha} = -p$$

であるから, $\tan(\alpha + 2\beta) = 2$ より, $p = -2$ となる. p は自然数であるから, これは不適.

$q \geq 2$ のとき

$$\tan 2\beta = \frac{2 \tan \beta}{1 - \tan^2 \beta} = \frac{2q}{q^2 - 1}$$

であり

$$\tan(\alpha + 2\beta) = \frac{\tan \alpha + \tan 2\beta}{1 - \tan \alpha \tan 2\beta} = \frac{\frac{1}{p} + \frac{2q}{q^2 - 1}}{1 - \frac{1}{p} \cdot \frac{2q}{q^2 - 1}} = \frac{q^2 - 1 + 2pq}{pq^2 - p - 2q}$$

である. よって, $\tan(\alpha + 2\beta) = 2$ より

$$\frac{q^2 - 1 + 2pq}{pq^2 - p - 2q} = 2$$

であり, これを整理して

$$2(q^2 - q - 1)p = q^2 + 4q - 1$$

である. $q \geq 2$ より

$$q^2 - q - 1 = (q - 2)(q + 1) + 1 > 0$$

であるから

$$p = \frac{q^2 + 4q - 1}{2(q^2 - q - 1)} \quad \text{………… ①}$$

である.

$q=2$ とすると, ① より, $p = \frac{11}{2}$ であるから不適である.

$q=3$ とすると, ① より, $p=2$ で適する.

q が 4 以上の偶数のとき, ① の分子は奇数, 分母は偶数となり, p は整数でないから, 不適である.

4

(35点)

$\triangle ABC$ は鋭角三角形であり、 $\angle A = \frac{\pi}{3}$ であるとする。また $\triangle ABC$ の外接円の半径は 1 であるとする。

- (1) $\triangle ABC$ の内心を P とするとき、 $\angle BPC$ を求めよ。
- (2) $\triangle ABC$ の内接円の半径 r の取りうる値の範囲を求めよ。

(1) 点 P は内心より、内角の二等分線の交点である。よって

$$\angle ABP = \angle PBC, \angle ACP = \angle PCB$$

であるから

$$\angle ABC = 2\angle PBC, \angle ACB = 2\angle PCB$$

である。

$$\angle ABC + \angle ACB = \pi - \angle BAC = \frac{2}{3}\pi$$

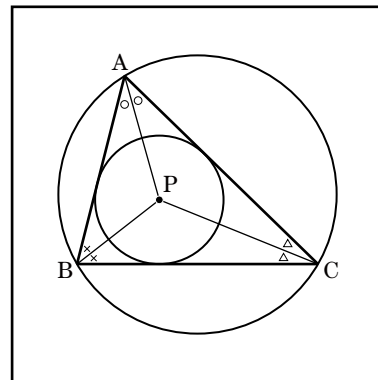
であるから

$$2(\angle PBC + \angle PCB) = \frac{2}{3}\pi \quad \therefore \angle PBC + \angle PCB = \frac{\pi}{3}$$

よって

$$\angle BPC = \pi - (\angle PBC + \angle PCB) = \frac{2}{3}\pi \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

である。



(2) 外接円の中心を O とし、 $\angle ABC, \angle ACB$ が直角となる A をそれぞれ A_1, A_2 とすると、点 A は劣弧 A_1A_2 上を動く。ただし、端点は除く。

$A = A_1$ のときの P を $P_1, A = A_2$ のときの P を P_2 とし、直線 BC に関する点 O の対称点 D をとると、(1) と円周角の定理の逆より、 P は D を中心とする半径 1 の円の劣弧 P_1P_2 上を動く。ただし、端点は除く。

$P = P_1$ のときの r は、 $\triangle A_1BC$ の面積を 2 通りで表すことにより

$$\frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \sqrt{3} = \frac{1}{2} (1 + 2 + \sqrt{3}) r \quad \therefore r = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$$

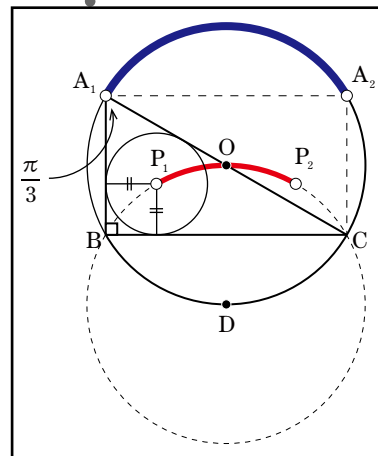
である。

$\triangle ABC$ が正三角形のとき、 $P = O$ で、このとき $r = \frac{1}{2}$ である。

r は点 P と辺 BC の距離として与えられるから、求める範囲は

$$\frac{\sqrt{3}-1}{2} < r \leq \frac{1}{2} \quad \dots\dots\dots (\text{答})$$

である。



5

(35 点)

$a \geq 0$ とする. $0 \leq x \leq \sqrt{2}$ の範囲で曲線 $y = xe^{-x}$, 直線 $y = ax$, 直線 $x = \sqrt{2}$ によって囲まれた部分の面積を $S(a)$ とする. このとき, $S(a)$ の最小値を求めよ.
(ここで「囲まれた部分」とは, 上の曲線または直線のうち 2 つ以上で囲まれた部分を意味するものとする.)

《解答》

$f(x) = xe^{-x}$ とおく.

$$f'(x) = (1-x)e^{-x}, \quad f''(x) = (x-2)e^{-x}$$

より, $f(x)$ の $0 \leq x \leq \sqrt{2}$ における増減表は次の通り.

x	0	...	1	...	$\sqrt{2}$
$f'(x)$		+	0	-	
$f''(x)$		-	-	-	
$f(x)$	0	↗	e^{-1}	↘	$\sqrt{2}e^{-\sqrt{2}}$

$y = f(x)$ 上の点 $(0, 0)$ における接線が $y = x$ であることに注意する.

$$f(x) - ax = x(e^{-x} - a)$$

である.

(i) $a \geq 1$ のとき

$0 < x < \sqrt{2}$ において

$$f(x) - ax < 0$$

より, 直線 $y = ax$ は曲線 $y = f(x)$ の上側にあるから, $S(a)$ は単調に増加する.

よって, $S(a) \geq S(1)$ である.

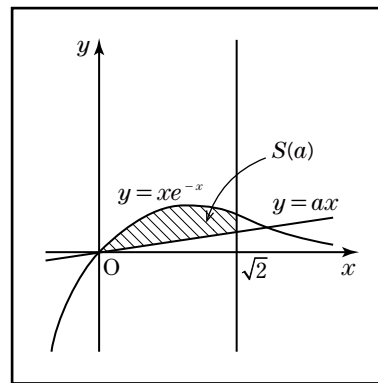
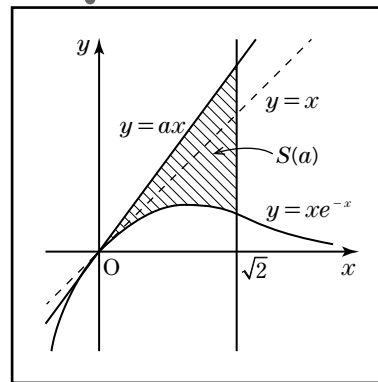
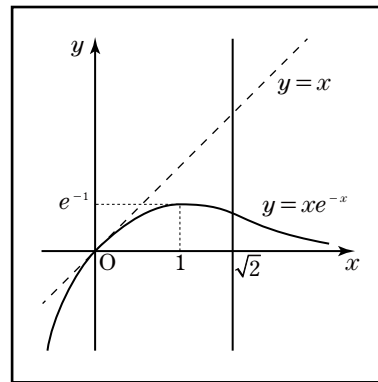
(ii) $0 \leq a \leq e^{-\sqrt{2}}$ のとき

$0 < x < \sqrt{2}$ において

$$f(x) - ax > 0$$

より, 直線 $y = ax$ は曲線 $y = f(x)$ の下側にあるから, $S(a)$ は単調に減少する.

よって, $S(a) \geq S(e^{-\sqrt{2}})$ である.



(iii) $e^{-\sqrt{2}} < a < 1$ のとき

$f(x) - ax = 0$ としたら, $x = 0, -\log a$ である.

$\alpha = -\log a$ とおくと

$0 < x < \alpha$ において, $f(x) - ax > 0$

$\alpha < x < \sqrt{2}$ において, $f(x) - ax < 0$

である.

よって

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_0^\alpha \{f(x) - ax\} dx + \int_\alpha^{\sqrt{2}} \{ax - f(x)\} dx \\ &= \int_0^\alpha xe^{-x} dx - a \int_0^\alpha x dx + \int_\alpha^{\sqrt{2}} xe^{-x} dx - a \int_\alpha^{\sqrt{2}} x dx \end{aligned}$$

である.

$$\begin{aligned} S'(a) &= \alpha \cdot e^{-\alpha} \cdot \frac{d\alpha}{da} - \int_0^\alpha x dx - a \cdot \alpha \cdot \frac{d\alpha}{da} \\ &\quad + \alpha \cdot e^{-\alpha} \cdot \frac{d\alpha}{da} - \int_\alpha^{\sqrt{2}} x dx - a \cdot \alpha \cdot \frac{d\alpha}{da} \\ &= \int_\alpha^{\sqrt{2}} x dx - \int_0^\alpha x dx \quad (\because e^{-\alpha} = a) \\ &= 1 - \alpha^2 \\ &= (1 + \log a)(1 - \log a) \end{aligned}$$

であるから, $S(a)$ の増減表は次のようになる.

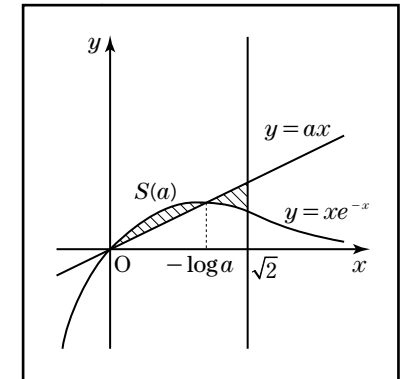
a	$e^{-\sqrt{2}}$...	e^{-1}	...	1
$S'(a)$		-	0	+	
$S(a)$		↘		↗	

よって, $S(e^{-\sqrt{2}}) > S(e^{-1}), S(1) > S(e^{-1})$ である.

以上, (i), (ii), (iii) より, $S(a)$ は $a = e^{-1}$ のとき, 最小値をとる. $a = e^{-1}$ のとき, $\alpha = 1$ であるから, 最小値は

$$\begin{aligned} S(e^{-1}) &= \int_0^1 (xe^{-x} - e^{-1}x) dx + \int_1^{\sqrt{2}} (e^{-1}x - xe^{-x}) dx \\ &= \left[-(x+1)e^{-x} - \frac{1}{2}e^{-1}x^2 \right]_0^1 + \left[-(x+1)e^{-x} - \frac{1}{2}e^{-1}x^2 \right]_1^{\sqrt{2}} \\ &= 1 - 4e^{-1} + (\sqrt{2} + 1)e^{-\sqrt{2}} \quad \dots\dots\dots \text{(答)} \end{aligned}$$

である.



6

(35点)

n を自然数とする. n 個の箱すべてに, $\boxed{1}$, $\boxed{2}$, $\boxed{3}$, $\boxed{4}$, $\boxed{5}$ の5種類のカードがそれぞれ1枚ずつ計5枚入っている. 各々の箱から1枚ずつカードを取り出し, 取り出した順に左から並べて n 桁の数 X を作る. このとき, X が3で割り切れる確率を求めよ.

以上より, 求める確率は

$$\frac{1}{3} - \frac{2}{15} \left(-\frac{1}{5}\right)^{n-1}$$

………… (答)

である.

《解答》

m を自然数とし, X と同様にして m 桁の数 X_m を作る時, X_m を3で割った余りが

0である確率を a_m

1である確率を b_m

2である確率を c_m

とし, m 個目の箱から取り出したカードの数を Y_m とする.

X_m が3で割り切れるのは, 並べたカードの数の和が3の倍数のときである.

$$X_{m+1} \equiv 10X_m + Y_{m+1} \equiv X_m + Y_{m+1} \pmod{3}$$

に注意すると, X_{m+1} が3で割り切れるのは次の3つの場合がある.

・ $X_m \equiv 0 \pmod{3}$ かつ $Y_{m+1} \equiv 0 \pmod{3}$ のとき

・ $X_m \equiv 1 \pmod{3}$ かつ $Y_{m+1} \equiv 2 \pmod{3}$ のとき

・ $X_m \equiv 2 \pmod{3}$ かつ $Y_{m+1} \equiv 1 \pmod{3}$ のとき

よって, $m = 1, 2, \dots$ で

$$a_{m+1} = \frac{1}{5}a_m + \frac{2}{5}b_m + \frac{2}{5}c_m$$

が成立する. すべての m で

$$a_m + b_m + c_m = 1$$

より

$$a_{m+1} = \frac{1}{5}a_m + \frac{2}{5}(1 - a_m) = -\frac{1}{5}a_m + \frac{2}{5}$$

である. よって

$$a_{m+1} - \frac{1}{3} = -\frac{1}{5} \left(a_m - \frac{1}{3} \right)$$

であり

$$a_1 - \frac{1}{3} = \frac{1}{5} - \frac{1}{3} = -\frac{2}{15}$$

であるから

$$a_m - \frac{1}{3} = -\frac{2}{15} \left(-\frac{1}{5}\right)^{m-1} \quad \therefore a_m = \frac{1}{3} - \frac{2}{15} \left(-\frac{1}{5}\right)^{m-1}$$

である.